



114
A 803
2



フィリピン島ニ於ケル帝國臣民保護
及軍事視察ニ関スル報告

第一回ノ追加

一本邦人ノ捕縛ト其解放(被捕縛者ノ一人坂元志魯雄ノ直話)

其實況

六月十三日居留帝國臣民坂元志魯雄泉谷精次郎
及神山辰次郎ノ参名ハ共ニトンド附近遊覽ノ目的ヲ
以テ該方面ニ到リ西兵ノ爲メニ捕獲セラレ遂ニ縛セラシ
其守備隊長某中佐ノ營ニ送致セラシ其面前ニ於テ
國籍職業住所姓名並ニ其詳細ノ目的ニツキ一應ノ
尋問ヲ受ケ百方之シヲ辯スト雖モ其疑惑ヲ去ラレ
ムルニ足ラス茲ニ馬尼刺西班牙政廳ノ王大稅源ノ一ト
稱スル人頭稅扎ハ此疑問ヲ明解セシムルニ足ルハキ隨



一、証據品タルニ不拍也シテ所有スルモノナキヲ以テ遂ニ束縛ノ後其本營ニ護送セラル、ノ止ムヲ得サルニ至レリ然ルニ其中途ニシテ一卒アリ追蹙シ来リ上官ノ意ヲ傳ヘ其縛ヲ解放セリ之ヲ推斷スルニ當時西人並ニ土人タルヲ問ハス一般日本人ヲ好視スルノ場合ニ於テ之レガ爲メ其感情ヲ害センコトヲ恐レタルモノ、如シ而シテ其本營ニ到リ亦前同全様ノ尋問ヲ受ケタリしが暫時ニシテ人ヲ派シテ右参考名ノ現任所ニ就キ其實否ヲ調査セシメタル後今夜之レヲ解放セリ

(該問題ト西人尋問ノ目的)

該問題ハ之レヲ奉クルノ價值ヲ有スルニアラズ記シテ以テ單ニ居留帝國臣民ニツキ斯クノ如キ事故發生セシ事アリト云フニ過キズ

蓋シ西人尋問ノ目的タル其歩哨線内通行ノ違犯者トシテ其罪科ヲ問ハントシタルニ非ス只其奉動ヲ怪ミタルモノ、如シ

二、パレックレ河口ノ閉鎖ニツキ被保護船「エスカノ」ノ出口並ニ小蒸気艇繫備ノ位置ニ関スル領事ノ通知

(本文寫)

本日正午十二時限リパレックレ河口ヲ閉鎖シ軍艦附屬小蒸気船ノ外ハ一切他ノ船舶ノ通航ヲ禁止スヘキ旨當府知港事ヨリ通達有之候ニ付救護船「エスカノ」號ハ帝國々旗ヲ建テ西國婦女小兒ヲ搭載シ本日前午申ニ出口致候趣昨夜及深更右船主ヨリ申出有之候間豫メ及佛提議置候通浮灣ノ上ハ今船

監視方可然湯取計相成度此段及湯通知候也
明治三十二年六月十四日 在マ三引領事館

二等領事 三増久末吉

松島艦長海軍大佐遠藤喜太郎殿

追々従来備慮ノ爲ノ旧英ノラゴ岸ニ繫泊相成
居候小蒸気船ハ本文ノ通河口閉鎖ノ形勢ニ差迫
候ニ就テ其上流ハ何時戦闘ノ區ト相成候ヤモ難
計然ル片ハ却テ危険ノ慮有之候様存候間自今
ハ従前之通「スイ」橋下流ノ岸頭ニ繫留相成様
湯取計有之度此段更ニ及湯依頼候也
依之本官ハ右通知ノ如ク小蒸気船ノ繫備ヲ命
ジタリ亦救護船「エスカ」ノ義ハ即テ第一回報告
第十二ト記スルカ如シ

秘

松秘第十四號

比律賓群島ニ於ケル帝國臣民ノ保護並ニ

軍事視察報告

第三回

明治三十二年七月八日於澎湖島 松島艦長遠藤喜太郎

海軍大臣侯爵西郷從道殿

第一「シエビック」灣ノ航海

本艦六軍艦秋津洲ト交代シ六月二十七日午前六時十二分マ三
湾ヲ抜錨ス先是在マニラニ等領事三増久末吉ノ
請求(寫ヲ添エ)アリ本邦人宮川久吉以下ノ所在搜索ノ
爲メ領事館員三浦荒次郎等ヲ兼組マシメ本艦

シエビック湾ニ航行ス

(月撃シタル事項)

一 馬尼刺湾口「マリベルス」湾ニ獨旗艦「カイセル」號及「フリセスウエルム」號ノ二艦並ニ獨艦隊用運送船「タルムスタット」號泊シアリ蓋シ「タルムスタット」號ハ獨國ヨリ東洋艦隊ノ交代兵員等ヲ搭載シ来リシモノニシテ同湾ニ於テ兩艦ノ兵員交替ヲ行フモノ、如シ

一 「コルレキドル」島付近ニ於テ英艦「ビケニー」號ノマニラ湾ニ進航スルニ遇フ蓋シ香港方面ヨリ来リシモノ、如シ

一 「マリベルス」湾ノ北方海上ニ於テ獨艦「イレス」號ノ北方ヨリ来リシ會フ蓋シ後トニテ聞ケハ「リウガエ」湾ヲ視察シ馬尼刺工船航スルモノナリ

同日午後二時四十分「シエビック」湾「ヲロンガポー」港ニ投錨シ

本邦人宮川等搜索ノ爲メ本艦士官並ニ三浦領事館員等上陸ス又陸上ヨリ小蒸気船ニテ西國海軍大尉一名訪問士トシテ来艦シ續テ本官モ軍港長ヲ訪問ノ爲メ上陸ス

第二「シエビック」湾「ヲロンガポー」ノ景况

- 一 「ヲロンガポー」半島ヲ一区域トシテ「アーセナル」ト爲シ障壁ヲ周ラシ其内ニ於テ兵舎二棟病院一棟倉庫一棟新築造船工場二棟鍛冶工場ノ如キモノ二棟及事務所一棟(長官居住)「スリップドック」等アリ
- 一 兵舎病院倉庫「スリップドック」事務所鍛冶工場等ハ千八百八十六年ノ建築ナリ
- 一 造船工場ニハ木ヲ諸器械ノ据付ナシ
- 一 「スリップドック」ニテハ小蒸気船ノ修理位ハ爲シ得ル

ト云フ

- 一 外輪気船二百噸位ノモノ小汽艇二隻アリ外輪気船ハ河流ヲ溯ル用ニ供スル如シ
- 一 構内障壁ノアラサル所ハ土砂ヲ充タセル「カスク」ヲ並列シ或ハ角材ヲ横置シ電線ヲ縦横ニ張りテ以テ塵埃ノ代リト爲セルヲ見ル
- 一 「アーセナル」長ハ海軍大佐副長海軍大尉ニシテ其ノ他大尉一名海兵大尉一名陸軍少佐一名醫官一名アリ
- 一 右海軍大佐ノ云フ所ニヨレハ湾内各所ニ叛徒起リ「ス」ニビツク「市」ノ如キハ既ニ叛徒ノ手ニ収メ唯守ヲ存スル所ハ北地一ヶ所ノミ而シテ叛徒ハ既ニ近傍ニ迫リ居リ襲撃ヲ受クルハ必ス近キニアラシ守備兵ハ海陸

軍會モテ四百名斗リアルモ内三分ノ一ハ病兵ナリ糧食ハ僅カニ一ヶ月ヲ支フルニ過ギスト云フ

五月三十一日ヨリ「マニラ」トノ音信不通ナリ

「スビツク」湾ヲ出テ、西岸ノ小港「シラレギン」及「タリサイ」ニ於テ西國ノ兵員及婦女子五百名斗リ叛徒攻圍ノ内ニアリ八日以前既ニ糧食欠乏ノ報ニ接セリ希クハ貴國軍艦ヲ該地ニ面シ救護シ兵士ヲ請求サレシモ本官ハ我國ハ局外中立ナレバ兵員及武器ヲ採リ得ル男子ニ救助ヲ與フル能ハス然レモ婦女子ニ於テハ厚愛ノ意ヨリ見ルモ救助ヲ與ヘ差支ナレト思考スルモ何分本艦ハ我領事館員モ兼組ミアリテ明早朝ハ「マニラ」ニ級港スルヲ要シ乍遺憾涕請求ニ應シ難シ然レ「マニラ」ヨリ音

港ニ航スル途中天候ノ許ス限リ該地ニ接近シ視察
スベシト約ス

第三避難者便乗

一 本官ハ同軍港長ト談話中同長ハ傍ラニ坐シアル士
官ニ何カ命スルヤ同士官ハ直ニ立テ奥ニ入ル暫クシテ
「ローマンカソリック」僧侶一名出テ来リ本官ニ向ヒ切ニ
香港迄便乗ヲ願ヒシモ之ヲ拒絶シタリ然レモ又一
婦人出テ来リテ一命ヲ助クル爲メ自分ト子供三人
ヲ香港迄便乗セシメ兵士ト涙ヲ流シテ切願ス軍
港長モ傍ヨリ瀕リニ懇望ス蓋シ當地ノ情況タル
實ニ危機切迫ニシテ婦女子ヲ他ニ遁逃セシムヘキ途
ナク甚カ攔然ノ至リナレハ同婦女子大ケル便乗ヲ
諾シテ舢舨ス同人ハ海軍海兵大尉ノ妻子ニシテ

午後十一時乗船ス

本邦人宮川久吉同妻及外二名モ「オロカポー」ニ
在住シテリ彼等ノ所望ニヨリ澎湖島迄便乗ヲ
許ス

一 午後十一時五十分西海軍士官一名乗船ス其乗
船ノ聞クニ彼レ曰ク今夜當地ニ於テ士官會議
ヲ開キ叛徒ノ乗襲今明日ヲモ期ス可カラス依テ
「オロカポー」ヲ捨テ港口ノ一島ニ引移ル可キヲ決
セリ願クハ貴艦明日午後迄即チ引キ揚ケテ結
了スル迄港内ニ在泊セラレシテ望ム素ヨリ得轉
ス可キニ付テハ補助ヲ仰ク等貴艦ヲ煩ハスニアラ
ズ本官答テ曰ク我レハ香港ニ向ツテ出港シ急遽ニ
通報ス可キ重要ナル任務アリ来月一日朝迄ニハ

着港セサルヲ得ス遺憾ナカラ貴意ニ應スルヲ
 能ハス蓋し斯ク本官ノ拒絶セシハ若し出艦ヲ延引
 スル必ズ種々ノ難題ヲ申込マシ或ハ反逆等ノ感
 情ヲ害スルヲ慮シバナリ又應答ノ間彼レノ語中
 ニモ貴艦着シ在泊セバ叛徒ハ未嘗セズ其間ニ
 一島ニ引得ヲ結了セシト破スト云フニアリ
 翌二十八日午前二時頃再々同士官来艦シ然ラハ何
 卒当軍港長ノ妻子及同次長ノ妻子ヲ香港ニ避難
 セシメ度便乗ヲ願フト依テ前同様之ヲ許諾ス
 同婦人等ハ午前二時三十分乗艦ス便乗ノ西人
 二軍港長ノ妻子及同次長ノ妻子海兵大尉ノ
 妻及子供三人都合九名(松壽第四八号避難者便乗
 報告参照)

但同避難者ハ香港着ノ上ニテ西國領事ニ
 引渡セリ

第四「オロシガポー」港ヨリ香港航海
 二十八日午前五時十分「オロシガポー」後編同正午馬尼
 刺湾着秋津洲ノ小蒸気艇ニ領事館員等ヲ得シ
 直々ニ香港工向テ航行ス湾内「コレキドル」島付近ニ於
 テ獨旗艦「カイセル」號ノ「マニラ」ニ進航スルニ命ス
 七月一日午前十一時五十六分香港ニ着シ第三浮標ニ
 敷留ス

記

一長崎縣南高島郡島原村八百五十三番戸平民

大工職 宮川久吉

同人妻 子下

同長男 兼吉

・熊本縣葦北郡山浦村八百五十八番戸平民

大工職 小川勝太郎

前記四名ノ者西國人某ノ家屋建築受負トシテ本年
三月末頃ヨリ當國パシガシ州又ビック湾内オロシガホ
工罷越候處今圓ノ戦乱ニ付通信全ク吐絶シ其安
否自毫モ不相分同地方ハ凡テ土匪蜂起ノ線内ニ付
此際何等異状無之モ難計候ニ付同人等事情
探知ノ爲ノ貴艦同湾内工回航相成本人等住跡

一應湯取糺之上其希望ニ由テハ当地迄送還ノ義可
然法取計有之候様故度此段及湯照會候也
明治三年六月二十六日

在マニラ

二等領事 三増久米吉印

松島艦長遠藤喜太郎殿

進テ本文スヒク湾へ入航ノ義ハ本日当地總督へ
一應及照會候處右ハ差支無之旨回答ニ付為
念此段申添付也